



専門医養成コース(後期研修プログラム)

コース名：

小児科・NICU専門医コース (グループ内ローテーション制度あり)

■ 病院名

学校法人 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学病院（栃木県那須塩原市）

■ 習得可能な専門医

(コース研修期間中に専門医資格申請要件を満たすもの)

日本小児科学会 小児科専門医

日本周産期新生児医学会 周産期専門医(新生児部門)

■ プログラム概略

小児の急性疾患から慢性疾患まで小児科全般にかかわる知識や態度、診療技術を習得することを目標とする。本プログラムは日本小児科学会の小児科専門医のための教育目標である「小児科医」の到達目標に即している。

小児の外来診療、入院診療、救急診療、検診・予防接種などをとって幅広く学び、小児の全身が診れる小児科医を目指す。

3年間の研修終了後には日本小児科学会小児科専門医の受験資格を取得できる。

NICUにおいては重症新生児・早産児の急性期・慢性期管理から、健常正期産児に対する新生児管理、および産婦人科との協力のもとでの出生前胎児・母体管理、ハイリスク児退院後の長期的なフォローアップまで、最先端の新生児医療の全体像について幅広く研修する

■ 施設認定

日本小児科学会 小児科専門医研修施設

日本周産期新生児医学会 指定研修施設

■ 指導医師

郡司勇治

教授・小児科部長、自治医科大学小児科准教授

桃井真里子

副学長、前自治医科大学とちぎ子ども医療センター長、
日本学術会議会員

田中 吾朗

教授

沼崎 啓

教授、日本感染症学会評議員、
日本臨床ウイルス学会幹事

村瀬真紀

教授・NICUセンター長、加古川市民病院小児科部長

日本周産期新生児医学会 指導医

醍醐 政樹

講師・NICU

長嶋 雅子

小児科病棟医長

■ 募集人員

3名

■ 研修期間

原則3年

※うち 1 年間は、国際医療福祉大学・高邦会グループで小児科領域を取り扱っている病院での研修の選択が可能。

■ 主となる研修施設の特徴

小児科領域で肺炎や急性気管支炎、急性胃腸炎、髄膜炎、尿路感染症等の感染症を中心とする急性疾患からより専門性の高いてんかん等の神経疾患、貧血や血小板減少性紫斑病などの血液疾患、先天性および川崎病後の心臓疾患、気管支喘息などの呼吸アレルギー疾患、消化器疾患などの慢性疾患まで広く小児疾患を中心に診療を行っています。消化器急性疾患では当院小児外科とも連携の上腸重積症の内科的注腸整復治療なども行なっています。

当院小児科は栃木県北部の小児拠点病院として地域の医療機関と連携しながら高度医療の提供を心掛けています。また小児救急においても2次救急受け入れ病院として週末を含む週4日の当番病院として地域医療に貢献しています。一方、本学関連の重症心身障害施設と連携しながら短期入院等にも対応しています。専門外来については、てんかん、発達障害のほか、言葉の遅れなど広く乳幼児期の発達相談についても、平成25年度より発達医学診療・研究センター(センター長、桃井真里子国際医療福祉大学副学長)が設立され、国際医療福祉リハビリテーションセンターとも協力し、日本小児神経学会認定専門医による診療を提供しています。また、学校心臓病検診の精密検査、川崎病などに対して、心臓超音波検査などを用いた診療を行うとともに血尿蛋白尿などの学校腎臓検診時の精査なども行っています。新生児医療については、年間出産数 800 を有する産科施設、助産師分娩施設を備え、栃木県北の基幹周産期 施設として、他科と共に地域の周産期医療・小児医療の責任を担う。近年は小児外科症例の増加に伴い、小児外科とも一体となってNICUを稼働させている。NICU内で

は、母乳育児、新生児栄養を重視し、さらに本年よりは心エコーによる心臓評価と近赤外光による脳循環検査の併用にて、重症新生児の循環・神経管理を施行しています。

■ 診療実績(平成24年度)

1) 外来診療((外来計 17,728 名、うち小児救急 1,676 名)

感染症や喘息等の小児科一般外来に加えて、新生児、神経、心臓超音波、腎臓、血液、予防接種など小児科全般にわたる外来診療を行っています。

特に神経、腎臓、に関してはグループ内神経専門医、および自治医大からの専門医による専門外来も併設して痙攣性疾患や精神運動発達遅滞の診断治療や自閉症、水腎症

をはじめ学校健診での尿検査異常のフォローなど当院小児科医と連携しながら進めています。

また、学校心臓検診の二次検診なども積極的に行っています。

また、消化器疾患では当院小児外科とも連携の上、腸重積などの小児消化器救急疾患の内科的整復治療なども行なっています。

また、救急車を含む救急患者の受け入れ、近医一次医療機関からの患者さんの受け入れを積極的に行っています。

特に夜間に関しては当院小児科では月曜、水曜、金曜、土曜を二次救急機関として、肺炎や喘息、痙攣等の多くの救急患者を受け入れています。

(2)入院

髄膜炎、肺炎等の重症感染症を始めグループ症候群、気管支喘息等の呼吸器疾患、痙攣性疾患、急性胃腸炎や脱水、川崎病、遺伝性球状赤血球症や特発性血小板減少性紫斑病等の血液疾患、急性腎盂腎炎等の尿路系疾患や糖尿病などの入院治療を行っています。また救急医療においても二次救急対応の小児救急拠点病院として、痙攣性疾患、肺炎や気管支喘息等の呼吸困難の症例や腸重積などの小児消化器救急疾患の内科的整復治療等、夜間の入院を受け入れて当地域の小児救急を担っています。

2012年度は多い症例としてはマイコプラズマ感染症41例、脳性麻痺41例、気管支喘息38例、急性気管支炎・肺炎34例、ロタウイルス性腸炎19例、川崎病17例などがあります。

(3)NICU

1000g未満:7、1500g未満:20、2000g未満:45、2500g未満:98

在胎28週未満:5、30週未満:9、32週未満:24、37週未満:87

入院総数:287(院内250、院外37)

■ コース修了時の到達目標

(小児科)

1. 急性・慢性の小児疾患・病態・問題の診断・治療・管理が包括的に行える。

— 重症度の判断と初期対応ができる。

— 小児の成長・発達の段階に応じた病歴・身体所見の採取、無駄のない検査の計画と実施、

論理的な思考による臨床推論により問題の診断ができる。

— 治療・管理計画を立案できる

— 基本的な手技に精通し、侵襲的な手技も安全に行える。

— 有効な診療録の記載ができる。

— EBMを適切に実践できる

— 入院から外来への連続性、成育の視点で先を見通して継続診療ができる。

— 限界を認識しつつ保険診療を遵守し、社会資源を効果的に活用できる。

2. 患者教育、予防・健康増進活動が実践できる。

3. こどもにとっての最善の利益を考えて行動できる。
 - ー利益と危険度のバランスを考えて診断・治療を組み立てられる
 - ー心理社会的・倫理的・法的・経済的な配慮の上で問題に対応できる。
4. 複雑な問題、同時多発の問題にも、優先順位を考えて柔軟に対応できる。
5. 子ども目線、子育て支援の視点で、良好な医師－患者関係を築ける。
(傾聴、共感と思いやり、尊敬、守秘、信頼構築と維持、明確な意思伝達)
6. 診療チーム内および対外的に良好な人間関係を構築し、連携できる。
(尊敬、共感と思いやり、良いアクセス、明確な意思伝達、支持的、
円滑な病診連携と搬送)

(NICU)

1. 健常正期産児の分娩立ち合い、蘇生、新生児期管理について習熟する。
2. 母乳育児の知識と技術を充分習得し、母乳指導の実際を学ぶ。
3. 健常正期産児の退院後の健診の実際を学ぶ
4. 新生児医療全般についての知識を習得する。
5. 新生児の診察が充分でき、細かい異常所見まで評価できるようになる。
6. 新生児医療の基本的手技；採血、ライン確保、蘇生、気管内挿管、髄液穿刺などに習熟する。
7. 酸素療法、人工呼吸器治療について習熟する
8. 各種モニタリングの評価が充分できるようになる
9. 放射線学的検査；単純 x 線写真、CT、MRI などの評価ができるようになる。
10. 超音波検査に習熟し、心臓形態検査、心機能評価を学ぶ。
11. 頭部、腹部などの超音波検査の実際を学ぶ。
12. 新生児医療における普遍的な診療録記載法を学ぶ。
13. 家族への病状説明の実際について学び、併せて両親・家族に対するケアの実際について習熟する。
14. ハイリスク児の退院指導の実際について学ぶ。
15. ハイリスク児のフォローアップの実際について、有る程度学ぶ。
16. 新生児医療における臨床研究と、その一部としての学会発表と論文作成の実際について指導を受け、新生児におけるエビデンスに基づいた医療を身に付ける。

■ 指導医師からのメッセージ

当院小児科は、15歳未満の年少人口約4万8千人を擁する那須医療圏に位置しています。そして、この二次医療圏におけるなくてはならない地域小児科センターの一つとして、入院小児医療を提供しています。症例数も多く充実した研修が可能です。小児科総合医を目指す先生や大学でスペシャリストを目指す先生のどちらにとってもかけがえのない貴重な3年間として勉強していただけたと考えています。ぜひ、一緒に小児医療について勉強していきましょう。

1年目 国際医療福祉大学病院でのキャリア形成：

一般小児診療を研修します。上級医とともに担当医となり主に入院患者の診療を行います。診療には回診時や上級医からの十分なサポートが受けられます。また、予防接種や夜間の当直（上級医とともに）をとうして小児保健や小児救急の研修を行います。

2年目 国際医療福祉大学病院でのキャリア形成：

入院診療に加えて指導医のサポートのもと週2回程度の外来診療も加わります。また、夜間の小児救急診療に関しても担当医として積極的に参加していただきます。また当院NICUにおいて小児新生児医療についても学んでいただきます。

3年目 他施設でのキャリア形成（例）

入院と外来診療を通して総合小児医療を実践していただきます。

その後小児専門医を取得します。

また、関連病院における研修も可能です。

**高木病院
(福岡県大川市)**

小児科の一般的な診療に加え、低身長外来・小児神経外来・発達外来・小児循環器外来などの研修と小児救急の実践を行う。

**山王病院
(東京都港区)**

大きく分けて 2 つの役割を担った病院で 1. 小児科疾患全般の診療と、予防接種などの健康管理。
2. 当院で生まれた新生児の診察と育児相談。を行っておりベテラン医師とともに研修を行う。

**国際医療福祉大学病院
(栃木県那須塩原市)**

小児科全般およびNICUについてしっかりとした知識と診療技術および態度を身につけ、小児科専門医を取得できるように研修する。

**福岡山王病院
(福岡県福岡市)**

たくさんのベテランの小児専門医師がおり研修をつむとともに、地域開業医と密接な連携についても勉強する。

**国際医療福祉
大学熱海病院
(静岡県熱海市)**

日常の一般診療に重点をおいた研修を行うとともに。専門分野では、心臓病、川崎病、内分泌疾患、代謝疾患、遺伝疾患、こころの相談などの診断、治療、経過観察を専門医とともに研修する。